

目次

はじめに

第一章 船算筒とは何か

第一節 船算筒の種類と形

(1) 懸硯	4
(2) 帳箱	5
(3) 半櫃	11
(4) 金具	11

第二節 近世海運と廻船

1 近世海運の成立と展開	14
(1) 第一期 公用荷物中心時代	15
(2) 第二期 民間荷物の発展期	16
(3) 第三期 買積船の活躍	21
2 廻船の乗組員と文書	22

	(1) 廻船の乗組員	22
	(2) 航行に関する文書	24
	(3) 積荷に関する文書	28
第三節 船乗りの持具		
1	浦証文からみた船乗りの持具	29
	(1) 浦証文	29
	(2) 船乗りの標準的持具	40
	(3) 持具と持主	43
	(4) 行李と風呂敷包の中身	43
	(5) 半櫃の中身	47
	(6) 懸硯と帳箱	48
2	浦証文からみた懸硯の重要性	50
第四節 船簞笥の呼称		
1	浦証文と「指掌録」にみる船簞笥の呼称	54
2	簞笥という言葉	58
第二章 船簞笥の様式形成と豪華形の出現		
第一節 船簞笥の様式形成		
		62

1	船簞笥の墨書	62
2	船簞笥の歴史の変遷概観	64
3	懸硯・帳箱・半櫃の様式形成	66
	(1) 指標の説明	66
	(2) 懸硯	68
	(3) 帳箱	76
	(4) 半櫃	80
第二節	様式変遷と豪華形の出現	82
1	懸硯・帳箱・半櫃の様式の変遷	82
	(1) 懸硯	82
	(2) 帳箱	84
	(3) 半櫃	86
2	豪華形の出現	86
	(1) 船簞笥の様式の発展過程	86
	(2) 発展段階と豪華形の出現	89
第三章	船簞笥の地域的差異と産地	95
第一節	船簞笥の地域的差異と豪華形船簞笥の集中地域	95

第二節 豪華形船簞笥の産地―その一・佐渡小木湊―……………98

1 時期と製造場所……………99

(1) 船簞笥からみた時期と製造場所……………99

(2) 佐渡における船簞笥の製造開始期……………101

2 小木湊の都市的發展……………105

3 小木湊における船簞笥製造の開始……………113

4 小木湊における船簞笥業の發展……………118

(1) 客船帳の考察……………118

(2) 製造業者についての考察……………120

(3) 製造業者の年代の変遷と船簞笥の意匠……………129

第三節 豪華形船簞笥の産地―その二・出羽酒田湊―……………132

1 酒田製の船簞笥の特徴……………132

2 簞笥調査からみた酒田湊の船簞笥製造……………135

(1) 帳簞笥……………135

(2) 衣裳簞笥……………138

3 職人調査からみた酒田湊の船簞笥製造……………143

(1) 箱屋……………145

(2) 鍛冶屋……………150

(3) 塗師……………151

4	酒田湊における船簞笥製造の状況	152
5	酒田湊の歴史と船簞笥製造	154
	(1) 酒田湊の歴史	154
	(2) 酒田湊における船簞笥製造業の位置	158
第四節	豪華形船簞笥の産地―その三・越前三国湊―	159
1	三国湊にみられる船簞笥	159
2	簞笥調査からみた三国湊における船簞笥製造	163
3	職人調査からみた三国湊における船簞笥製造	167
4	三国湊の歴史と廻船業	176
第五節	船簞笥の大産地としての小木湊	180
1	小木湊の地理的条件	180
2	小木湊の歴史的条件	182
第六節	実用形船簞笥の産地―その一・泉州堺―	186
1	『毛吹草』にみる指物・櫃と懸硯	186
2	堺における中浜と指物屋	187
3	堺湊の繁栄	190
4	堺と懸硯	192

第七節 実用形船簞笥の産地―その二・大坂―

- 1 阿波座の指物……………195
- 2 大坂の歴史と阿波座……………197
- 3 地誌類にみる大坂の指物業……………200
- 4 船簞笥産地としての大坂……………205

第八節 実用形船簞笥の産地―その三・江戸―

- 1 京橋区南金六町と船簞笥……………207
- 2 江戸京橋一帯の歴史と金六町……………208
- 3 京橋金六町の住吉屋と紀州……………213
- 4 豪華形船簞笥産地と実用形船簞笥産地の関係……………215

第四章 豪華形船簞笥と北前船

第一節 運賃積船と買積船……………223

- 1 利潤の大きな買積船……………223
- 2 乗組員の給料……………227
- 3 船簞笥の価格……………231
- 4 買積船と船簞笥……………237

第二節 豪華形船簞笥の展開と買積船の活発化

1	北前船の発展	241
2	船簞笥とは何だったのか——まとめにかえて——	244

図表一覧

あとがき

基礎資料1	浦証文一覧	2
基礎資料2-1	年代判明の船簞笥一覧	4
基礎資料2-2	年代不明の船簞笥一覧	10
基礎資料2-3	年代判明の船簞笥データ	20
基礎資料2-4	年代不明の船簞笥データ	58

## 第一章 船簞笥とは何か

第一章では、本書における研究対象である船簞笥とはどのようなものであるかという問題を扱う。

第一節で船簞笥にはどのような種類があり、それぞれの形はどのようなものであるかといった形態的な側面を説明し、次に第二節で船簞笥の存在基盤であった江戸時代の海運と廻船について、先行研究によりつつその概要を述べ、さらに第三節で浦証文を主な史料として、船簞笥というものが、誰によつてどのように使われたものか、またその場合どのような役割と意味を持っていたのかということについて検討する。そして第四節で従来用いられてきた船簞笥の呼称について再検討を行うことにする。

### 第一節 船簞笥の種類と形

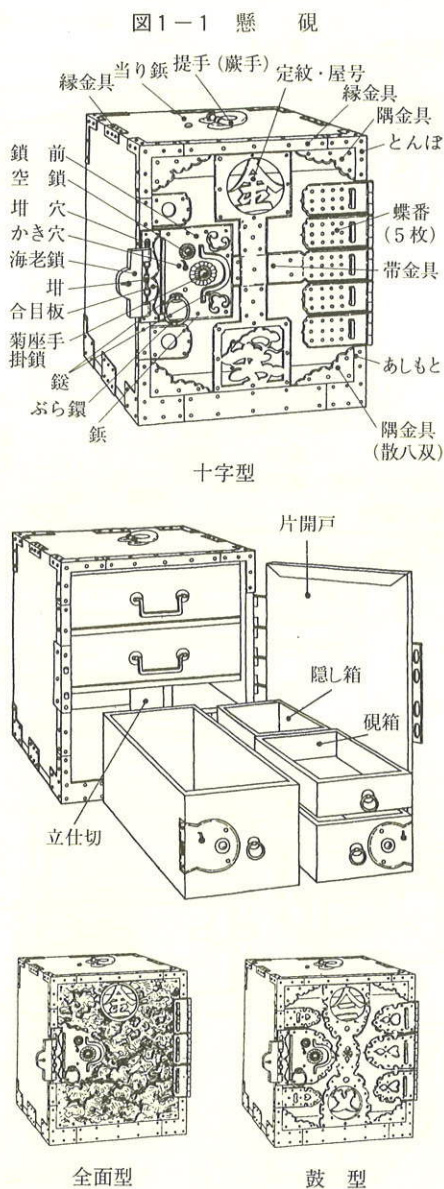
最初に船簞笥について、種類、形、大きさ、作り方、材料などの面から説明する。表1-1(1)「船簞笥の種類と形」に示したように、船簞笥は懸硯けんいん(掛硯とも書く)ちようすげ・帳箱ちようすげ・半櫃はんぐいの三種類に大別される。用途の詳細は後に述べるが、懸硯と帳箱は一種の金庫(さらにいえば前者は手提金庫)で、半櫃は衣装櫃である。ただし呼び名については、懸硯だけは全国共通だが、帳箱・半櫃は必ずしも共通する名称ではない。この点ものち



(2) 帳箱

帳箱は意匠の種類が非常に多く、時期によっても違うので一概にはいえないが、大体のところは図1-1-2に示した通りである。大きさは間口五一から六〇センチ、奥行四五から四八センチ、高さ四五から五五センチ、形はこれも仮にタイプ分けすると、慳貪型、門型、抽斗型、複合型に分かれる。ただし帳箱の場合、かなりくりが多く、抽斗のように見えて慳貪（上下または左右に溝があり、蓋または戸がはめ外しできるところ）である（横にずらしてははずす摩戸であったりするため、このタイプ分けはあくまでも見えがかりである）。

慳貪型は正面が慳貪蓋である。これも正面が全面一続きのものと上下に分かれているものがある。門型



## 1 時期と製造場所

### (1) 船簞笥からみた時期と製造場所

佐渡製であると確認できる船簞笥を基礎資料2—1・2—2からリストアップしたのが表3—3「佐渡製船簞笥リスト」である（年代判明のものとは判明しないものとに分けた）。全部で五七例ある。

年代の点からみていくと、最も古いものが「二〇二」（二七八九）でこれは沢根町製である。つぎが「二〇二」（二八一四）で、これは小木湊製で、以下「二〇九」（二八七二）まで全て小木湊で作られている。时期的には天保期（一八三〇—一四四）以降に多くなっている。

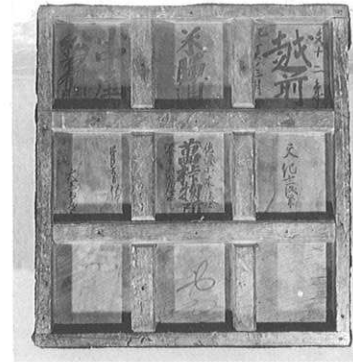
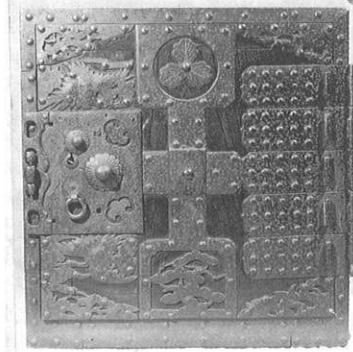
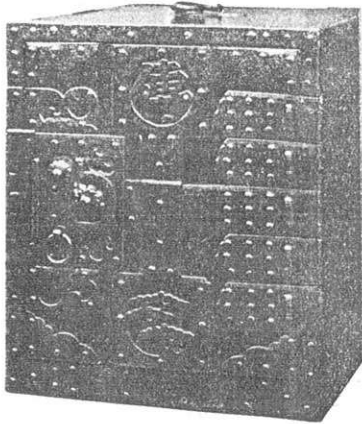
つぎに年代不明の方も含めて場所と製造業者をみてみる。場所では、沢根町が二例、小木湊が四三例、不明が一二例（これも小木湊であろうが）で、小木湊が圧倒的に多い。製作者・販売者名では湊屋（利寿と利八郎は同一家系と考えられる）が一六例、浜屋（おくめやとも）が五例、箱屋（辰治郎・辰右衛門は同一家系と考えられる）が二例、綿屋・賀登屋が各一例、あとは職人名だけが記されている。これにより簞笥製造が行われていた場所は沢根町と小木湊であったということがわかる。とくに小木湊はこれだけ屋号を記した店があった事実からみても、相当の規模の産地であったことがうかがえる。

年代的には、ここからわかるのは一八世紀末頃からで、一九世紀に入ると多くなり、一九世紀の後期まで続いていたということだけである。では小木にしろ、沢根にしろ、佐渡の地で船簞笥の製造が始まったのはいつ頃からだったのだろうか。この点を文献史料からみてみよう。

基礎資料 1 浦証文一覧 .....	2
基礎資料 2 - 1 年代判明の船簞笥一覧 .....	4
基礎資料 2 - 2 年代不明の船簞笥一覧 .....	10
基礎資料 2 - 3 年代判明の船簞笥データ	
当初持主・製作地判明 (101~124) .....	20
製作地判明 (201~209) .....	32
当初持主判明 (301~340) .....	37
年代のみ判明 (401~402) .....	57
基礎資料 2 - 4 年代不明の船簞笥データ	
当初持主・製作地判明 (501~543) .....	58
製作地判明 (601~610) .....	80
当初持主判明 (701~763) .....	85
持主推定 (801~823) .....	117

基礎資料2-3 年代判明 of 船單筒データ 当初持主・製作地判明 (101~124)

番号	102	種類	懸硯	番号	101	種類	懸硯
型/技法	十字/透彫			型/技法	十字/透彫		
寸法	W365	D455	H415	寸法	W435	D480	H465
木材/金具	樺/鉄			木材/金具	樺/鉄		
年代	1817			年代	1814		
当初持主(職業)	長久丸(船用)			当初持主(職業)	小中屋松右衛門(船頭力)		
住所	佐渡小木			住所	越前米脇浦		
製作地	佐渡小木			製作地	佐渡小木湊		
製作者/販売者	不明/不明			製作者/販売者	大工留蔵/湊屋利八郎		



墨書  
佐州小木 己二月吉祥日  
文化十四年  
長久丸

墨書(底裏)  
文十二年  
越前文化十二戌年  
乙亥ノ三月  
米脇浦 佐渡小木湊  
萬杵物所  
湊屋利八郎仕出し  
小中屋 大工留蔵  
松右衛門

基礎資料2-4 年代不明の船算笥データ 当初持主判明 (701~763)

番号	702	種類	懸硯	番号	701	種類	懸硯
型/技法	十字/透彫			型/技法	十字/透彫		
寸法	未採寸			寸法	未採寸		
木材/金具	樺/鉄			木材/金具	樺/鉄		
当初持主(職業)	北野秀太郎(船持 北野家の先祖)			当初持主(職業)	長沢(しめ)家の先祖(船持)		
住所	越前安嶋			住所	山形県鶴岡市加茂		



墨書  
(右上抽斗底裏)  
越前  
安嶋(消えている)  
北野秀太郎  
金具  
(屋号) 丸に北

金具  
(屋号) 丸に長

◆著者略歴◆

小泉 和子 (こいずみ・かずこ)

1933年東京生まれ。家具道具室内史学会会長。昭和のくらし博物館館長。工学博士。

[著書]

『家具と室内意匠の文化史』(法政大学出版局, 1979) 『箆筒』(法政大学出版局, 1982) 『TRADITIONAL JAPANESE FURNITURE』(講談社インターナショナル, 1986) 『アールヌーボーの館—旧松本健次郎邸』(共著/三省堂, 1986) 『道具が語る生活史』(朝日新聞社, 1989) 『台所道具いまむかし』(平凡社, 1994) 『室内と家具の歴史』(中央公論新社, 1995) 『家具』(東京堂出版, 1995) 『絵巻物の建築を読む』(編著/東京大学出版会, 1996) 『和家具』(小学館, 1996) 『類從雑要抄指図巻』(編著/中央公論美術出版, 1998) 『昭和台所なつかし図鑑』(平凡社, 1998) 『占領軍住宅の記録上下』(編著/住まいの図書館出版局, 1999) 『桶と樽—脇役の日本史—』(編著/法政大学出版局, 2000) 『昭和のくらし博物館』(河出書房新社, 2000) 『ちゃぶ台の昭和』(編著/河出書房新社, 2002) 『別冊太陽 和家具』(編著/平凡社, 2005) 『西洋家具ものがたり』(河出書房新社, 2005) 『日本の住宅』という実験—風土をデザインした藤井厚二』(農文協, 2008) 『TRADITIONAL JAPANESE CHESTS』(講談社インターナショナル, 2010) ほか

ふなたんす けんきゅう  
船箆筒の研究

平成23 (2011) 年 4 月 25 日 発行

定価：本体6,000円(税別)

著 者 小泉 和子

発 行 者 田 中 周 二

発 行 所 株式会社 思文閣出版  
606-8203 京都市左京区田中関田町2-7  
電話075(751)1781(代)

印刷・製本 株式会社 図書印刷 同朋舎

©K. Koizumi

ISBN978-4-7842-1503-4 C3039